

## アクティブ・ラーニング・ワークショップ

ファシリテーター: 武田俊之、内田啓太郎（関西学院大学高等教育推進センター）

日時: 2013 年 9 月 11 日（水）13:00-16:00

場所: 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 情報メディア棟第 1PC 教室

学生の主体的な学修へ向けた授業として「アクティブ・ラーニング」が注目されています。しかし、そのことばは、参加型・能動型などの意味を共有しながらも、きわめて多様なつかいかたをされているようです。また、「アクティブ・ラーニング」を実現する授業の方法や評価もさまざまで、実際の授業における効果と負担が理解しづらいのではないかと思います。

このワークショップは、「アクティブ・ラーニング」について、その方法をためしながら考えるためのワークショップです。その手順は、短い文書を分担して読み、ジグソー法によってそれぞれの理解を持ちよって深め、マインドマップによって発想を広げた上で、三角ロジックを使ってコンテンツにまとめていきます。

### 内容

#### 13:00-13:15 ワークショップの概要説明・グループ分け

3つのグループに分かれます。

#### 13:15-14:15 ジグソー法によるテキストの理解（武田）

このセッションでは、「アクティブ・ラーニング」に関する短いテキストを、参加者で分担して読み、ジグソー法によって理解を共有しながら、より正確で深い理解と多様な意見を知ることが目的です。

## ジグソー法とは

ジグソー法とは、協同学習を促すためにアロンソンによって編み出された方法である。1つの長い文章を3つの部分に切って、それぞれを3人グループの1人ずつが受け持って勉強する。それを持ち寄って互いに自分が勉強したところを紹介しあって、ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる手法。

[http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/opencourses/pf/3Block/10/10-3\\_text.html](http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/opencourses/pf/3Block/10/10-3_text.html)

### 個人作業（8分）

- 1) 資料をホームグループのメンバーで分担して読みます。
  - ✓ 事実と意見を峻別しながら読んで、ノートをつくります。
  - ✓ エキスパートグループで質問するために、理解できないことを書いておくことは重要です。
  - ✓ ノートは文章になにが書いてあったかを伝えるためにつくりませんが、事実や意見がちがうところもメモしておきましょう。

### エキスパートグループ（12分）

- 2) グループからはなれて、同じ資料を読んだ人で集まります。
- 3) 理解した内容をエキスパートグループで話しあって、誤解や理解の不足を修正します。
  - ✓ わからないところを他の人に質問しましょう。
  - ✓ 話しあいながら、自分のグループに持ちかえって説明するためのノートをそれぞれで作ります。

### ホームグループ（30分）

- 4) それぞれがエキスパートグループでまとめた内容を、他のメンバーに説明します。理解してもらえていないときは、いいかえて説明しなおします。
  - ✓ わからないところを他の人に質問しましょう。
  - ✓ このステップは、まだ知識の収集が目的です。まとめを意識せずに文章に書かれていることの理解してください。
  - ✓ 文章間でことになっている内容があれば、書き出してください。

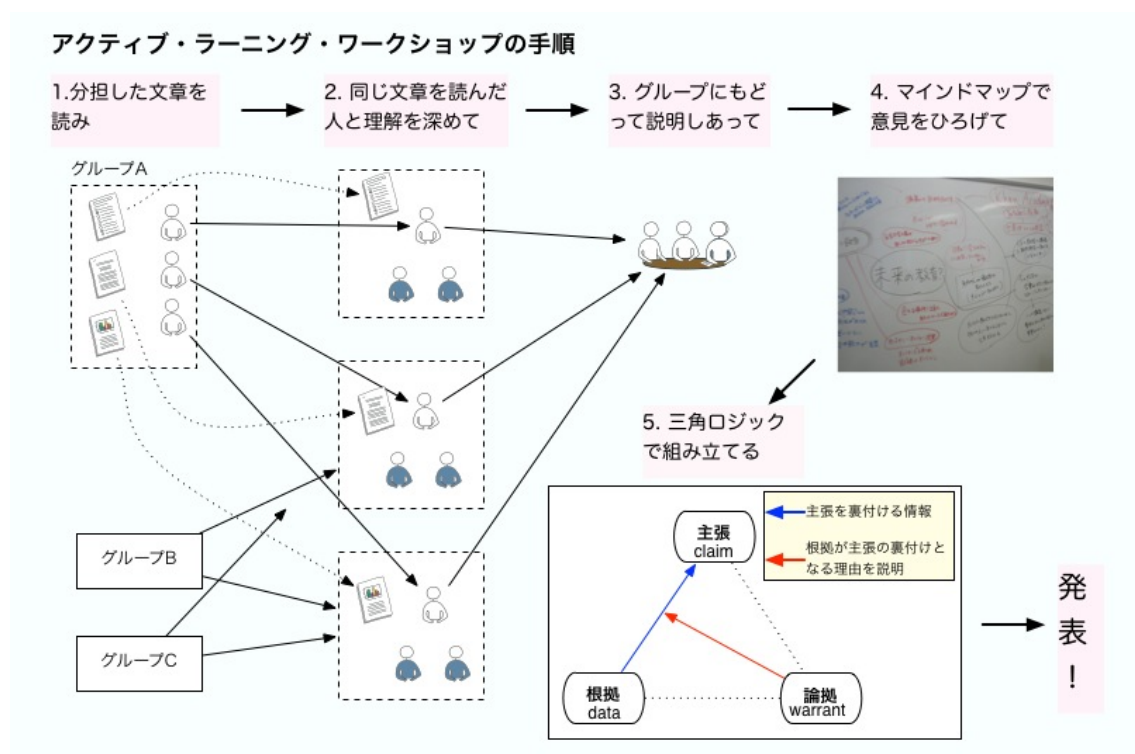
### 休憩（15分）

## 14:30-15:30 マインドマップと三角ロジックを使ったプレゼンテーション作成（内田）

ワークショップ後半は、前半の活動でグループに共有された情報・意見をアイデアとして、そこからさらに発展させてひとつのロジックを作り上げます。そのロジックをもとにスライドを作成し、ワークショップの最後にプレゼンテーションを行います。

他者へ自分たちの考えをきちんと伝えるためには主張や根拠を含むロジックが必要となります。これらを組み合わせたものを「三角ロジック」と呼びます。ワークショップではすでにグループでひとつにまとめたアイデアを出発点として、自由な発想を出し合い「マインドマップ」として描き出します。このマインドマップから三角ロジックを組み立て、そこから三角ロジックを上手く説明できるスライドの作成へと進んでいきます。プレゼンテーションの終了後、参加者の間で批評し合い、その成果を共有します。

## 15:30-16:00 ディスカッション



## 配布資料

- アクティブ・ラーニング・ワークショップ（本紙）
  - （追加資料）マインドマップのやり方
1. 河合塾レポート「大学のアクティブラーニング」, Guideline, 2011.4・5  
[http://www.keinet.ne.jp/gl/11/04/report\\_1104.pdf](http://www.keinet.ne.jp/gl/11/04/report_1104.pdf)
  2. 溝上慎一「大人数講義における知をふまえたアクティブラーニング型授業（ピアインストラクション）の開発」河合塾・RIASEC 主催 PROG セミナー, 2012/7/14
  3. 高橋 宏, アクティブ・ラーニングの効果的实践 話し合い学習法等の経験から, アルカディア学報（教育学術新聞掲載コラム）No.523, 2013.6.19.  
<http://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/arcadia/0523.html>
  4. 山田礼子, 【大学教育部会の審議まとめをめぐって】  
学修時間の確保に向けてどうすべきか アクティブ・ラーニング導入の効果, アルカディア学報（教育学術新聞掲載コラム）No.489, 2012.7.28
  5. アクティブラーニングニュースレター, Vol1. Issue 1（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構アクティブラーニング部門）  
<http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/pdf/KOMEX-DALT-Newsletter-Autumn.pdf>
  6. アクティブラーニングニュースレター, Vol1. Issue 2（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構アクティブラーニング部門）  
<http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/pdf/KOMEX-DALT-Newsletter-Spring.pdf>
  7. ツイッターのログ